

The logo is a shield-shaped emblem with a white outline. Inside the shield, the text "ITmedia" is at the top, "Security Week" is in the middle in a large serif font, and "2022 summer" is at the bottom. The shield is set against a dark blue background.

ITmedia
Security Week
2022
summer

Ver.1.0

Produce by

ITmedia
ITセキュリティ

ITmedia
ITセキュリティ

@ I T
a t m a r k I T

Security Week 2022 summer

開催概要

会期名称

ITmedia Security Week 2022夏

主催



開催日時

2022年6月6日(月)～13日(月)予定

申込締切

2022年3月18日(金)

イベント形式

集合型オンラインセミナー

視聴方法

無料登録制

事前申込者数

約800名想定

想定視聴者属性

経営者、経営企画の方、社内情報システムの運用・方針策定をする立場の方、企業情報システム部門の企画担当者、運用管理者、SIer など

告知/集客

ITmedia エンタープライズ、ITmedia エグゼクティブ、@ITを中心とした当社媒体

運営

アイティメディア株式会社 セミナー運営事務局

過去開催実績

ITmedia Security Week 2021冬

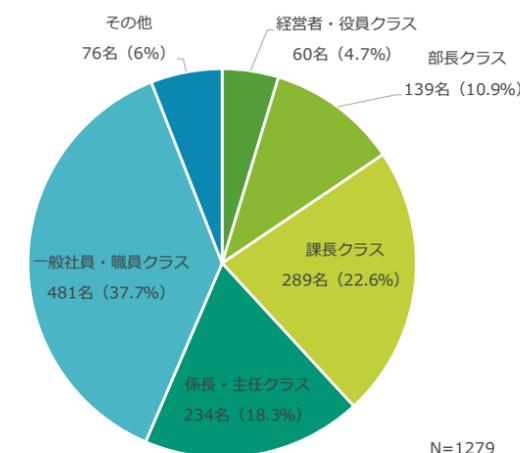
▼開催期間

2021年11月29日(月)～12月6日(月)

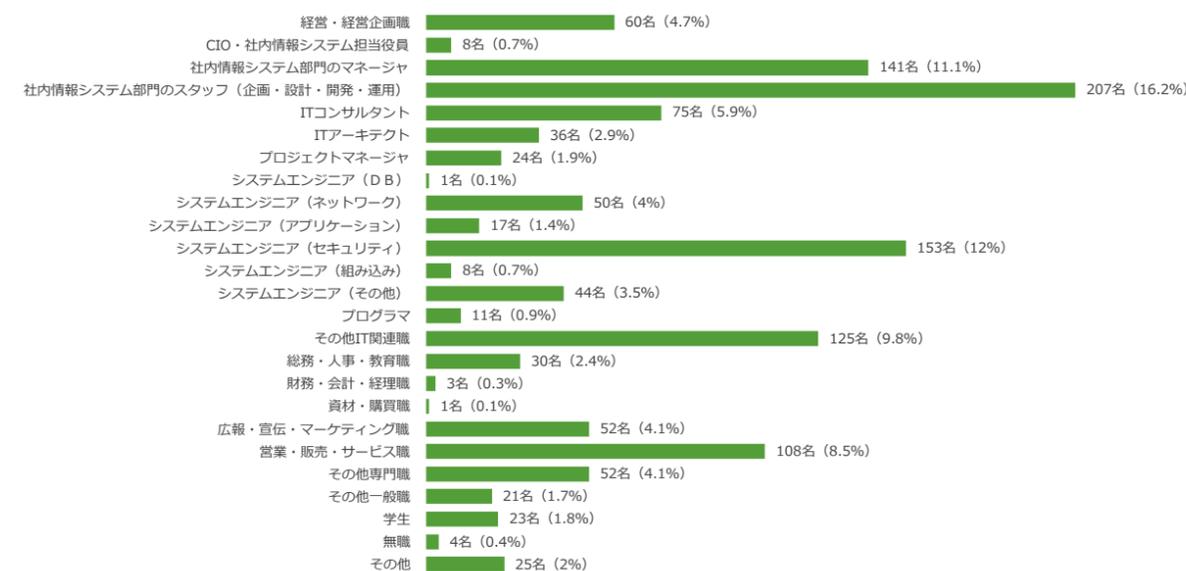
▼申込者数

1279名

来場者役職



来場者職種



N=1279

本内容は予告なく変更または実施を中止する場合がございます。あらかじめご了承ください。ご不明点等は営業担当までお問い合わせください。

長引くコロナ禍でサイバー攻撃も加速 再点検、「新常态」のサイバーセキュリティ対策

Section1

サイバーセキュリティリスクとマネジメント

サイバーセキュリティは最大の経営リスクとなりつつあります。その脅威は変わり続けており、単にツールを導入すれば守り切れるというものでもありません。より実戦的で投資対効果の高いセキュリティ対策について議論していきます。

Section2

未来へつながるセキュリティ

「新技術」「新概念」と呼ばれるような新たな仕組みを知るだけでなく、そこに至るまでの歴史や現状を押さえることで、システムを守るための新たな視点や解像度を得ることを狙います。

Section3

クラウド&ゼロトラスト

クラウド、そしてゼロトラストの分野におけるセキュリティを過不足なく実践するために必要な知見、そしてソリューションを知ること、現在進めている企業のIT活用をさらに強化することを狙います。

Section4

エンドポイント対策&情報管理

組織を守るためには、サイバー犯罪者にとって組織内への入り口となるエンドポイントの防御手法を知ること、そしてゴールである情報を定義し守ることが重要です。

Section5

クラウド時代の脆弱性管理（ポスチャ管理）

クラウド利用の急増でSaaSやIaaSのセキュリティ設定不備が新たな課題となっています。本ゾーンでは「クラウド事業者に任せれば安心」というありがちな誤解を解きつつ、「クラウド設定の適切な管理とは何か」を探ります。

Section1

サイバーセキュリティリスクとマネジメント

デジタル変革（DX）が次なる成長のカギを握る中、サイバーセキュリティの維持はビジネスの欠かせない前提条件であり、そのリスクは経営の根幹を揺るがすもののひとつとなりつつあります。脅威は日々刻々と変わり続けており、単にツールを導入すれば守り切れるというものでもありません。自社のリスクを洗い出し、防止策を打つとともに、事件・事故が起こった際にはその影響を最小限に抑え、いち早く回復させるためにはどうすればいいのか、いわゆる危機管理の備えも必要となってきます。Section1「サイバーセキュリティリスクとマネジメント」では、企業の最前線でサイバーセキュリティに取り組んでいる専門家をお招きし、完璧な安全を目指すのではなく、より実戦的で投資対効果の高いセキュリティ対策とは何かについて議論していきます。

Section2

未来へつながるセキュリティ

「承前啓後」という言葉があります。温故知新と同義のこの言葉は「昔からのものを受け継いで、未来を切り開くこと」を意味します。セキュリティの世界では日々新たな概念が生まれます。新たなことを学ぶとともに、その礎となる基礎も学んでいく必要があるでしょう。このセクションでは「新技術」「新概念」と呼ばれるような新たな仕組みを知るだけでなく、そこに至るまでの歴史や現状を押さえることで、システムを守るための新たな視点や解像度を得ることを狙います。

— Key word —

以下において「新技術」「新概念」「新機能」を含むソリューション

情報漏えい全般
マルウェア検知ソリューション全般（次世代アンチウイルス含む）
セキュリティ診断系全般
レッドチーム演習
EDR (Endpoint Detection and Response)
XDRなどxDR (ディテクション&レスポンス) 系全般
EMM (Enterprise Mobility Management)
IDaaS (Identity as a Service)

IRM (Information Rights Management)
SASE (Secure Access Service Edge)
SWG (Secure Web Gateway)
SOAR (Security Orchestration, Automation and Response)
UEBA (User and Entity Behavior Analytics)
SIEM (Security Information and Event Management)
BYOD
RBI (Remote Browser Isolation)

— 視聴者の抱える想定課題 —

日々登場する新たな機能が、本当に自社に必要なのか、不要なのかを判断できない新たな情報を集め続けなければ対応に遅れが出てしまうのではないかと、という感度の高い視聴者に響かせるのが狙い。

Section3

クラウド&ゼロトラスト

クラウド活用、「ゼロトラスト」の概念の導入はもはや当たり前の時代に突入しました。IT新技術導入後に検討される“セキュリティ”についても、これらのエリアでの適用を真剣に考えるタイミングです。

このセクションではクラウド、そしてゼロトラストの分野におけるセキュリティを過不足なく実践するために必要な知見、そしてソリューションを知ることで、現在進めている企業のIT活用をさらに強化することを狙います。

— Key word —

SaaS、PaaS、IaaSほかクラウド&セキュリティ関連全般（Office365などと連携する製品も含む）
ネットワークセキュリティソリューション全般
ファイアウォール、IDS、IPS、セキュリティスイッチ、ルーター製品
セキュリティの仮想アプライアンス全般
VPNソリューション
IDaaS (Identity as a Service)
SASE (Secure Access Service Edge)
SDP (Software Defined Perimeter)
SWG (Secure Web Gateway)

SOAR (Security Orchestration, Automation and Response)
UEBA (User and Entity Behavior Analytics)
SIEM
BYOD
マネージドサービス全般
暗号関連全般（鍵管理も含む）
ゼロトラスト・ネットワーク構築系ソリューション全般
シフトレフト系
認証系全般

— 視聴者の抱える想定課題 —

いま検討しているゼロトラストシフト、既に完了したクラウドシフトにおける「認識の穴」「システムの穴」に気が付くためのソリューションを本ゾーンで知り、「視聴者が気が付いていないことに気が付ける」ことを目指します。

Section4

エンドポイント対策&情報管理

サイバー攻撃が全ての企業をターゲットとしている今、「エンドポイント」を保護することは必須です。これまでのウイルス対策ソフトを入れれば終わりという時代は過ぎ、その先を考えなくてはなりません。さらに、エンドポイントを守る理由にも注目すべきでしょう。その先には「情報」があり、これを守るこそがゴールです。

ここではエンドポイントを守ることに加え、データ保護の考え方を学びます。そのために役に立つ技術やソリューションを知ること、企業をさらに強くしていきましょう。

— Key word —

情報漏えい対策全般
資産管理系全般／脆弱性管理系全般 (SBOMなど含む)
マルウェア検知ソリューション全般 (次世代アンチウイルス含む)
EDR (Endpoint Detection and Response)、XDRなどXDR (ディテクション&レスポンス) 系全般
フィッシング対策製品全般
EMM (Enterprise Mobility Management)

IRM (Information Rights Management)
SOAR (Security Orchestration, Automation and Response)
UEBA (User and Entity Behavior Analytics)
SIEM
BYOD
RBI (Remote Browser Isolation)

— 視聴者の抱える想定課題 —

新しいマルウェアを知って防ぎたい、EDRの使い方が分からない、情報漏えいをなんとしても防ぎたい、社内にある資産を把握していない、脆弱性を把握していない、脆弱性が発表されてもなにをしていいのかわからない、脆弱性が発表されても対象となる機器がどこにあるのかわからない、フィッシングから利用者／組織を守る方法が分からない

Section5

クラウド時代の脆弱性管理（ポスチャ管理）

クラウドサービス利用が急増する中、サービスへの理解不足やヒューマンエラーによって生じるSaaS、IaaSのセキュリティ設定不備が新たな課題になっています。これらを放置すれば重大な情報漏えいや不正アクセスを引き起こす危険性があるため、一刻も早く対処する必要があります。しかしシステム担当者の中には、IaaSの責任分界点が不明瞭だったり、セキュリティ上有効なクラウドサービス設定が分からなかったりする方もいるのではないのでしょうか。

こうした"クラウド時代特有の課題"に注目し、「クラウドサービスだから大丈夫」という先入観を捨ててそのリスクをあらためて学ぶとともに、技術だけでなく組織の観点からもクラウドの適切な管理手法を探ります。

— Key word —

CSPM (Cloud Security Posture Management) サービス全般

CWPP (Cloud Workload Protection Platform) サービス全般

CASB (Cloud Access Security Broker) サービス全般

CIEM (Cloud Infrastructure Entitlements Management) サービス全般

CNAPP (Cloud Native Application Protection Platform) サービス全般

— 視聴者の抱える想定課題 —

セキュリティ上有効なクラウドサービス設定が分からない、IaaSの責任分界点が不明瞭、SaaSの仕様変更に追いついていない、クラウド設定を適切に理解し変化をキャッチアップする人材が不足しているorいない、IaaSの設定を事業者任せにしている、クラウドのワークロードが多様化しており、これの管理に困っている、クラウドにおけるアプリケーションの利用状況を可視化したい、クラウドにおける特権IDを適切に管理したい

Producer's Comment

コロナ禍にあっても、企業を狙ったサイバー攻撃はその手を弱めることはなく、むしろ、犯罪のサイバー空間への移行が加速しています。

一方、ウイズコロナの「新常態」では、デジタル変革（DX）が次なる成長のカギとなっており、ビジネスのデジタルへの依存度はさらに高まっていくでしょう。より一層、適切なサイバーセキュリティ対策が求められています。

従来型の境界防御に代わって「ゼロトラスト」モデルに期待が寄せられていますが、それも万能ではありません。また、ウイズコロナで何よりも議論しなければならないのは、デジタルを前提とした新たなビジネスモデルや働き方を描いていく中、サイバーセキュリティをどう位置づけていくかでしょう。

ITmedia Security Week 2022夏では、
急ぎ対応してきたコロナ禍のサイバーセキュリティ対策を再点検するとともに、DXのアクセルをさらに踏み込んでいく上で、これからのサイバーセキュリティ対策はどうあるべきか、そして、より実戦的で投資対効果の高いセキュリティ対策とは何か、について議論していきます。





Content

Security Week 2022 summer

▶▶ Timetable

	Section1 サイバーセキュリティリスク とマネジメント	Section2 未来へつながる セキュリティ	Section3 クラウド& ゼロトラスト	Section4 エンドポイント対策 &情報管理	Section5 クラウド時代の 脆弱性管理	専用ゾーン
10:00~ 10:40	モーニングセッション 1	モーニングセッション 2	モーニングセッション 3	モーニングセッション 4	モーニングセッション 5	
10:50~ 11:20	スポンサーセッション 1-1	スポンサーセッション 2-1	スポンサーセッション 3-1	スポンサーセッション 4-1	スポンサーセッション 5-1	
11:30~ 12:00	スポンサーセッション 1-2	スポンサーセッション 2-1	スポンサーセッション 3-2	スポンサーセッション 4-2	スポンサーセッション 5-2	
Break						
13:00~ 13:40	基調講演 1-1	基調講演 2-1	基調講演 3-1	基調講演 4-1	基調講演 5-1	基調講演 6-1
13:50~ 14:20	スポンサーセッション 1-3	スポンサーセッション 2-3	スポンサーセッション 3-3	スポンサーセッション 4-3	スポンサーセッション 5-3	スポンサーセッション 6-1
14:30~ 15:00	スポンサーセッション 1-4	スポンサーセッション 2-4	スポンサーセッション 3-4	スポンサーセッション 4-4	スポンサーセッション 5-4	スポンサーセッション 6-2
15:10~ 15:50	基調講演 1-2	基調講演 2-2	基調講演 3-2	基調講演 4-2	基調講演 5-2	基調講演 6-2
16:00~ 16:30	スポンサーセッション 1-5	スポンサーセッション 2-5	スポンサーセッション 3-5	スポンサーセッション 4-5	スポンサーセッション 5-5	スポンサーセッション 6-3
16:40~ 17:10	スポンサーセッション 1-6	スポンサーセッション 2-6	スポンサーセッション 3-6	スポンサーセッション 4-6	スポンサーセッション 5-6	スポンサーセッション 6-4

専用ゾーン1

専用ゾーン2

セッション枠時間：モーニングセッション・基調講演40分、スポンサーセッション30分 ※上記タイムテーブルは変更となる可能性があります。



Sponsored Menu

ご協賛プランは以下の5種類をご用意

2社限定の
特別プラン!

ダイヤモンド

編集部が企画するゲストセッション1枠と、貴社セッション2枠から構成される貴社専用ゾーンを設置するプランです。編集部が貴社の訴求したいメッセージをお伺いし、ゾーン全体の概要やゲストセッション候補者のご提案・講演概要の企画をすることで、貴社テーマに関心の高い視聴者へ訴求することが可能です。

プラチナ

スポンサーセッション1枠と、イベント全申込者リストをご提供するプランです。貴社セッションを視聴した関心の高い読者から、イベント全体の申込者まで幅広いリストを獲得可能です。

ゴールド

スポンサーセッション1枠と、協賛セクション事前申込者リストをご提供するプランです。協賛セクションのテーマに興味がある参加者へアプローチすることが可能です。

全リスト

イベント全体の事前申込者リストをご提供するプランです。スポンサーセッションの準備が難しい場合でも、多くのリストを獲得することが可能です。

セクションリスト

セクション単位での事前申込者リストをご提供するプランです。協賛セクションのテーマに興味がある視聴者のリストを獲得することが可能です。

スポンサーセッション

30分のセッション枠をご活用いただけます。
ライブ配信に必要なカメラやマイクなどの機材はすべてITmediaにてご用意しておりますので、当日ご登壇者様が弊社指定スタジオにお越しただけで手軽にセッションを行っていただけます。
ご来社が難しい場合は、30分以内に編集いただいた動画データをご納品いただき、当日配信することも可能です。



ダイヤモンド

ゲスト+2セッション

プラチナ

ゴールド

全リスト

セクション

セッションアンケート

貴社のセッション枠の時間内に独自のアンケートを実施いただくことが可能です。
回答形式は単一回答、複数回答、自由回答の3種類を組み合わせることで自由に設定いただけます。



ダイヤモンド

プラチナ

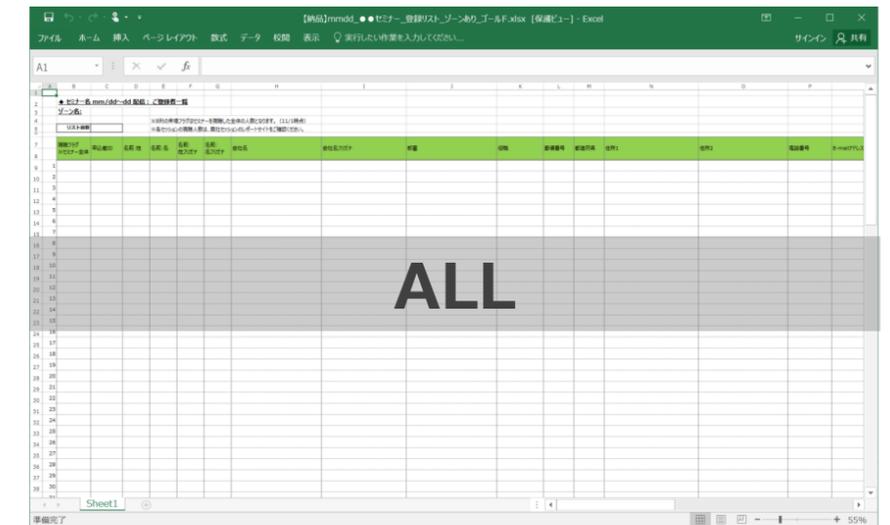
ゴールド

全リスト

セクション

全申込者リスト

全申込者の「会社名」「部署名」「役職」「電話番号」「メールアドレス」など、名刺情報をリストにてご提供します。
申込者リストはイベント終了後3~5営業日以内にReport Centerシステム経由でExcelデータ形式にて納品させていただきます。



ダイヤモンド

プラチナ

ゴールド

全リスト

セクション

※画像はすべて参考イメージになります。

スポンサーロゴ掲載



イベントの集客サイトに貴社のロゴを掲示し、貴社サイトへのリンクを設定いたします。

ダイヤモンド

プラチナ

ゴールド

全リスト

セクション

配布資料

貴社セッション内で視聴者に向けて、ご講演資料+3点まで資料の配布が可能です。PDFデータを送付いただきダウンロードリンクとするほか、貴社の指定外部リンクを設定することも可能です。



ダイヤモンド

プラチナ

ゴールド

全リスト

セクション

開催報告書

ITmediaで一般来場者へ全体アンケートを行っており、その集計結果を開催報告書として会期終了後にご提供いたします。開催報告書内は個人情報を含まない、集計データでのご提供となります。



ダイヤモンド

プラチナ

ゴールド

全リスト

セクション

※画像はすべて参考イメージになります。

Security Week 2022 summer

Menu List

協賛プラン	ダイヤモンド (限定2社)	プラチナ	ゴールド	全リスト	セクションリスト
スポンサーセッション	● (ゲスト+2セッション) Live配信+アーカイブ	● Live配信+アーカイブ	● Live配信+アーカイブ	—	—
スポンサーアンケート	●	●	●	—	—
全申込者リスト ※想定800名	—	●	—	●	—
協賛セクション申込者リスト	● 想定300名 ※追加オプション有	—	● 想定350名	—	● 想定350名
自セッションの 視聴者データ・レポートサイト	●	●	●	—	—
事前アンケート結果	●	●	●	●	●
スポンサーロゴ掲載	●	●	●	●	●
資料配布	●	●	●	—	—
開催報告書	●	●	●	●	●
	¥5,000,000-	¥3,200,000-	¥2,200,000-	¥1,500,000-	¥1,000,000-

※ご協賛申込が申込締切日以降となった場合、各プランとも想定の前申込者データ数に達しない可能性がございます。
 ※セッションスポンサーが4社未満の場合、実施は見合わせとなります。
 ※スポンサー数に応じて、プログラムは適宜変更いたします。

(すべて税別・グロス価格)

ダイヤモンド・プラチナ・ゴールドプランスポンサー限定！

セットメニュー タイアアップ記事への行動履歴ターゲティング誘導

読者の行動データ（記事閲覧履歴）を基に「興味・関心」を特定し、「興味・関心」の高い人を貴社タイアアップ記事へ誘導します。
読者の行動データを外部サービスへ連携し拡張配信を行うことで、アイティメディアに訪れたことが無くても、同じ「興味・関心を持つ人」を捕捉することで読者のリーチが広がります。

タイアアップ記事を制作



興味関心がある人だけを抽出

誘導



ご提供価格

¥1,500,000-

協賛社様限定！

定価

¥1,700,000-

保証PV

5,000PV

掲載期間

最短1週間～最長2ヶ月
(保証PVを達成次第終了)

仕様

3,000～4,000文字、図版2～3点

実施内容

- ・タイアアップ記事 1本制作
- ※本メニューは、ライブ/オンデマンド配信、録画データ等を視聴しながら要点をまとめるものです。別途取材は行いません。
- ・読者行動データを基にタイアアップ記事への誘導広告
- ・閲覧レポート (PV,UB,閲覧企業等)

対象媒体

ITmedia エンタープライズ、@IT

※制作した記事広告の著作権は、当社および制作スタッフ（ライター、カメラマンなど）に帰属します。
※著名人のアサインや、遠方への取材などが必要な場合は、別途料金を頂戴いたします。
※印刷物でのご利用は二次利用費が発生いたしますので、利用をご希望される場合は担当営業までお問合わせ下さい。
※お申し込み後、広告主様の都合で合意いただいた内容から大きく変更を行う場合、追加費用が発生する場合がございます。

・本サービスは、オーディエンスの拡張配信及び、外部メディアを利用したプランとなります。
・外部メディアの利用先はアイティメディアが内容に応じて、最適な配信先を選択します（指定出来ません）
・誘導原稿はアイティメディアが準備いたします（事前の確認・指定はできません）
・誘導広告は保証PV達成次第、掲載を停止いたしますが、最低1週間は掲載を保証いたします。



Schedule

Security Week 2022 summer

お申し込みからの流れ

2022年3月18日(金)

申込締切

締め切りまでに**利用申込書**を担当営業にご提出ください。
用紙及びご提出先は担当営業よりご案内させていただきます。

一般向け
告知準備

イベント告知にも関連する、セッションのご講演者情報、ご講演タイトル、
貴社ロゴデータなど合わせてご提出いただき、
セッション登録用紙を事務局へご提出ください。

4月中旬～

イベント告知
開始

事務局にて、集客のためのイベント告知サイトをオープンいたします。
同時に視聴希望者の事前登録も開始いたします。

開催準備

開催に向けて、**配布資料・視聴者向けセッションアンケート設問・動画納品**の
場合のご講演データなどを事務局にご提出ください。
開催2営業日前までにレポートサイト情報もお送りさせていただきます。

2022年6月6日(月)
～6月13日(月)

イベント開催

イベント本番となります。ライブ講演いただく場合は、事務局よりご案内する時間まで
に弊社スタジオ受付にお越しください。また、開催中はレポートサイトにてリアルタイム
にセッション視聴者数などをご確認いただけます。

終了後～

会期終了

会期終了後、**3～5営業日以内に事前申込者のリスト**をご提出させていただきます。
また終了後1～2週間程度、セッションのアーカイブ配信を行います。※予定
開催報告書は集計後、別途営業担当よりご提出させていただきます。

※上記は目安のスケジュールとなります。詳細なスケジュールは開催日が決定後、ご案内いたします。



Appendix

Security Week 2022 summer

セッションの視聴画面イメージ

ご講演者情報

貴社名と合わせまして、ご講演者様の氏名、肩書、お写真を掲出させていただきます。

配布資料

貴社セッション視聴者様に向けての配布資料を設置可能です。最大3点まで設置できますので、ご希望の資料を支給ください。

Q&Aフォーム

ご希望の場合は視聴者からの質問を受け付けるQ&Aフォームをご利用いただけます。

ITmedia Security Week 2021 winter

LIVE Live Streaming 視聴無料

一覧に戻る

講演者

講演映像・音声

Riotaro OKADA - riotaro@rsrch.jp

配布資料

次のセッションへ

セッションアンケート

セッションアンケート

*1. 複数選択肢/単一回答の設問 (必須)

選択

*2. 複数選択肢/複数回答可の設問 (任意)

選択肢①

選択肢②

選択肢③

*3. フリーコメント

送信

ご講演映像

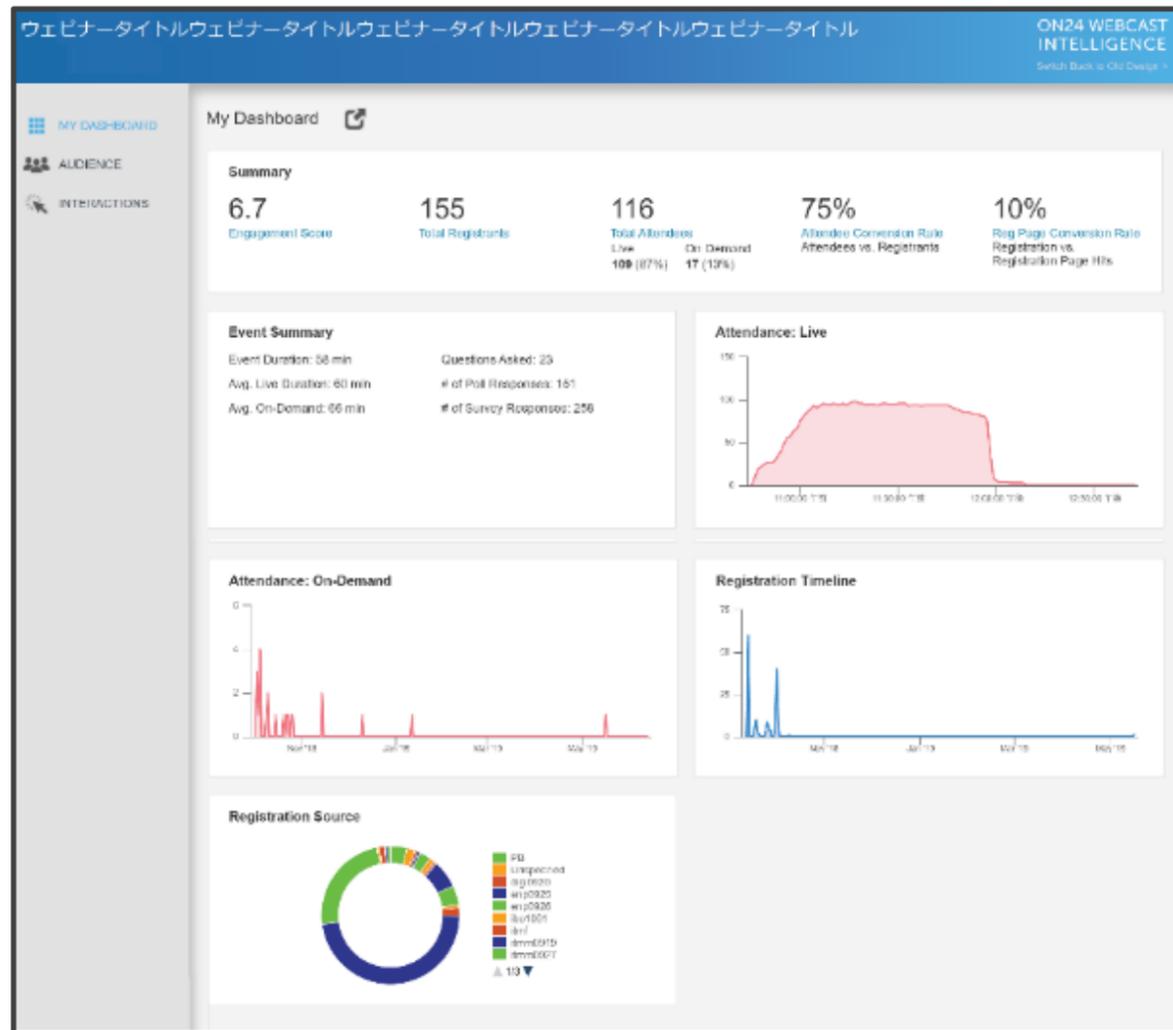
ご講演の映像を放映します。ライブ配信で投影資料がある場合は、事前に事務局に送付いただければ、ご講演者様と組み合わせた画面構成に調整いたします。

セッションアンケート

貴社セッションの視聴者様に向けてアンケートを行っていただくことも可能です。最大9問まで設定可能ですので、ご希望の場合は設問内容をご連絡ください。

Security Week 2022 summer

イベントレポートサイトで貴社セッションの視聴者をリアルタイムにチェック可能

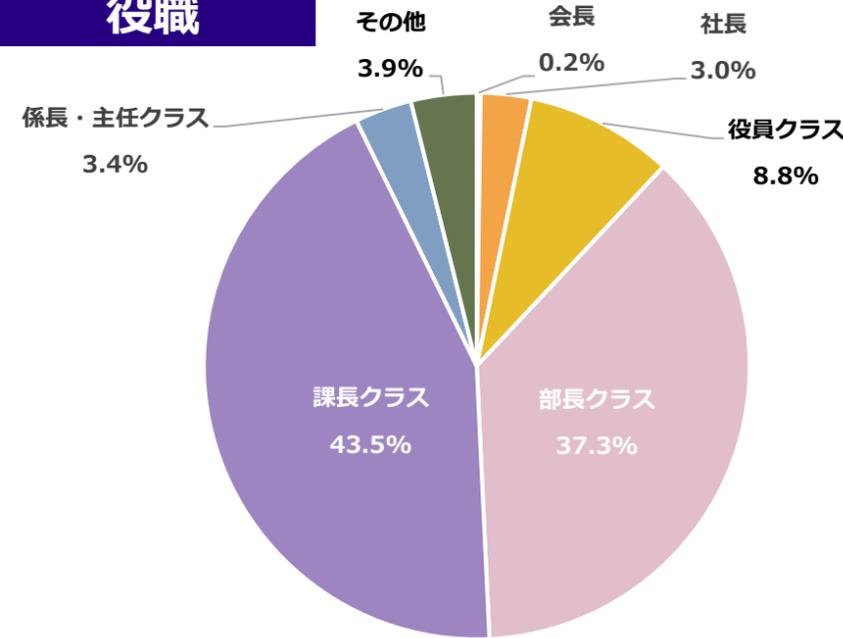


- ### オンラインレポート掲載項目
- ✓ 視聴者情報
 - 登録項目
 - 氏名
 - 役職
 - 所属社名
 - 従業員規模
 - 業種
 - 職種
 - OS
 - ブラウザ
 - ✓ セッションの視聴人数
 - ✓ 視聴人数の推移
 - ✓ 平均視聴時間
 - ✓ Q&A、資料ダウンロードなどの行動履歴

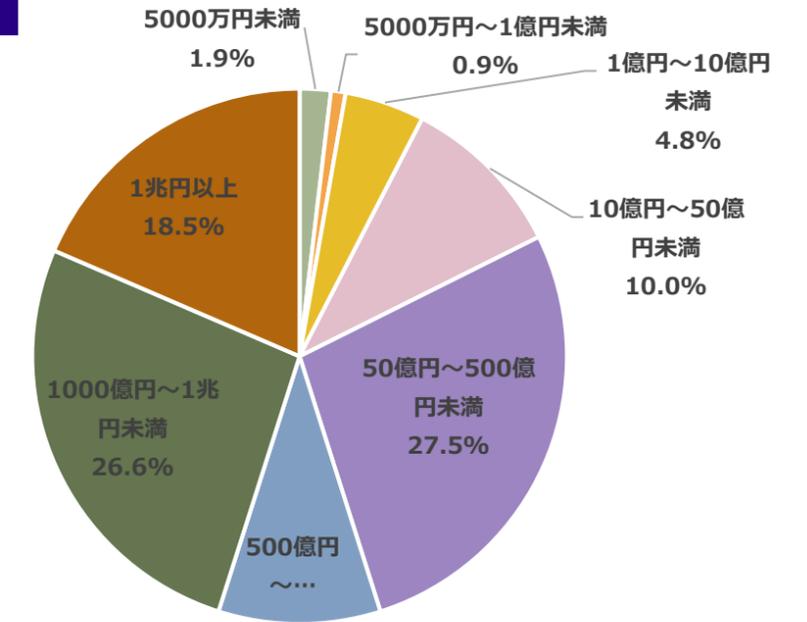
Security Week 2022 summer



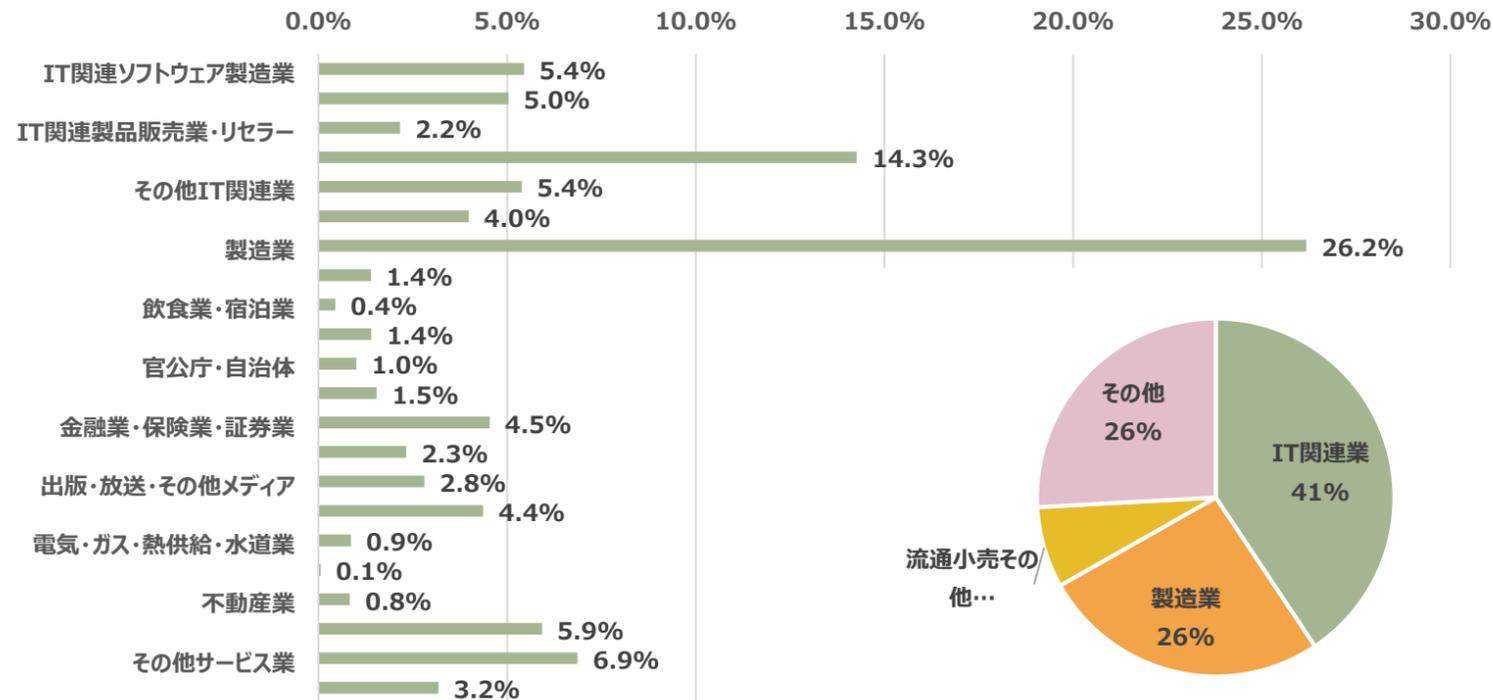
役職



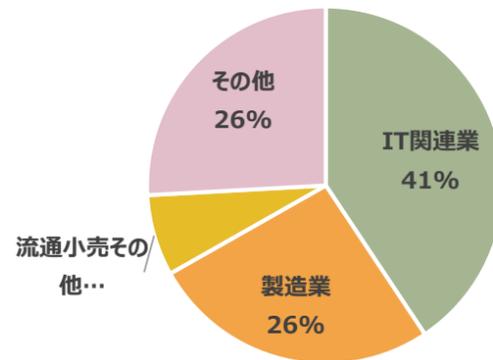
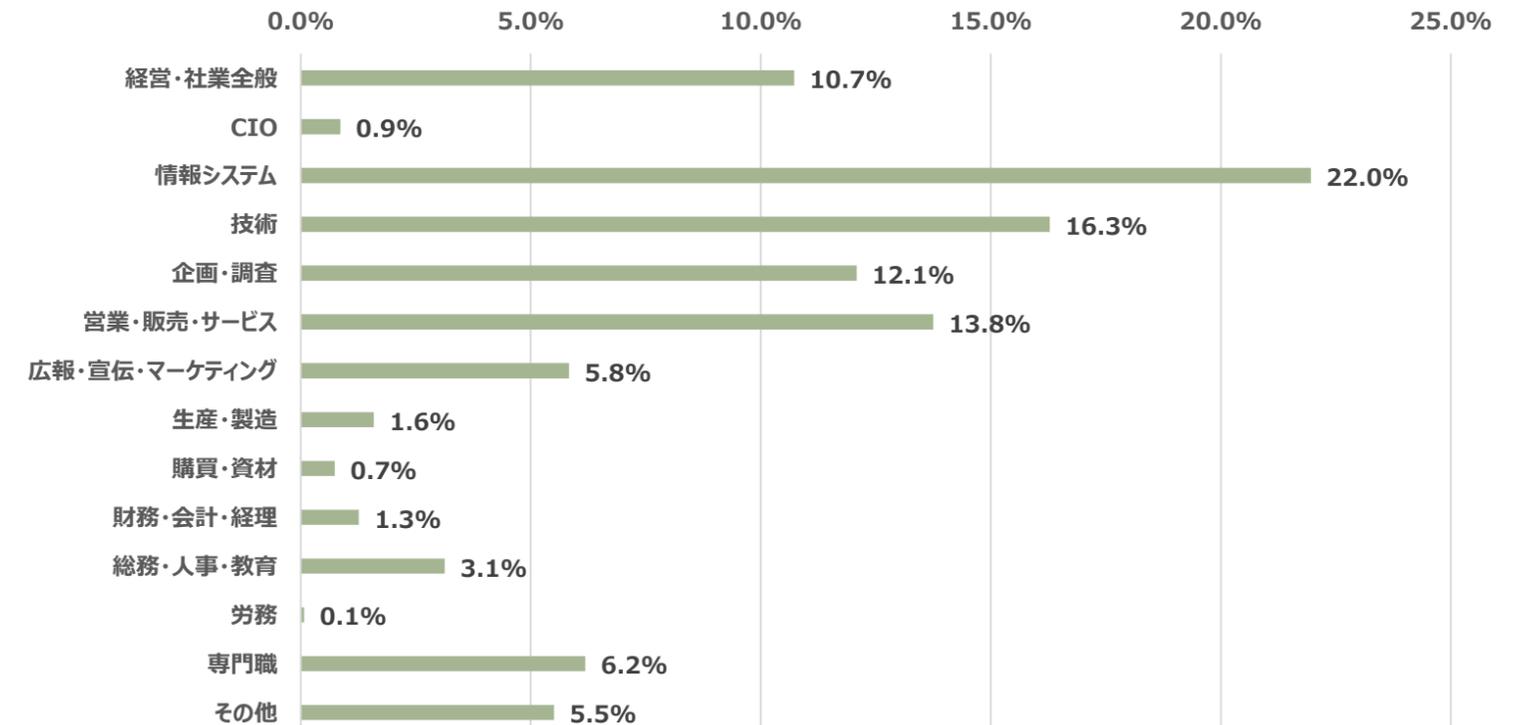
年商規模



業種



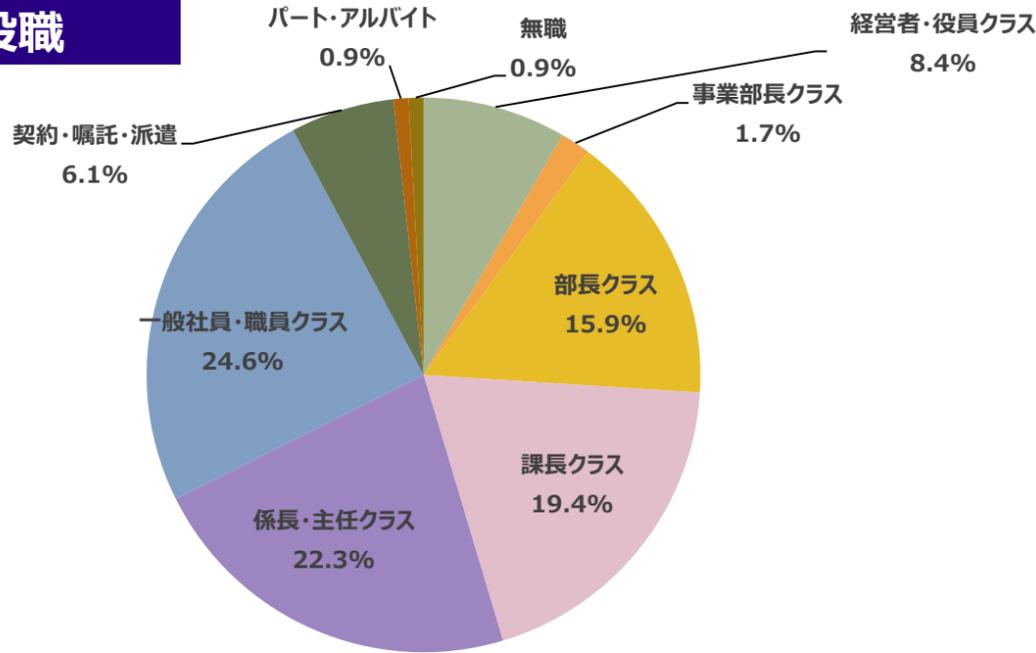
職種



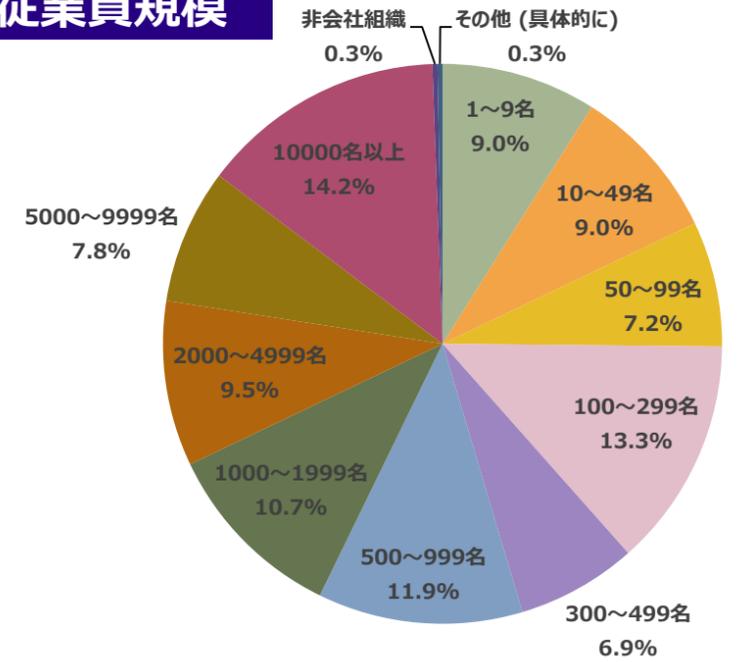
Security Week 2022 summer



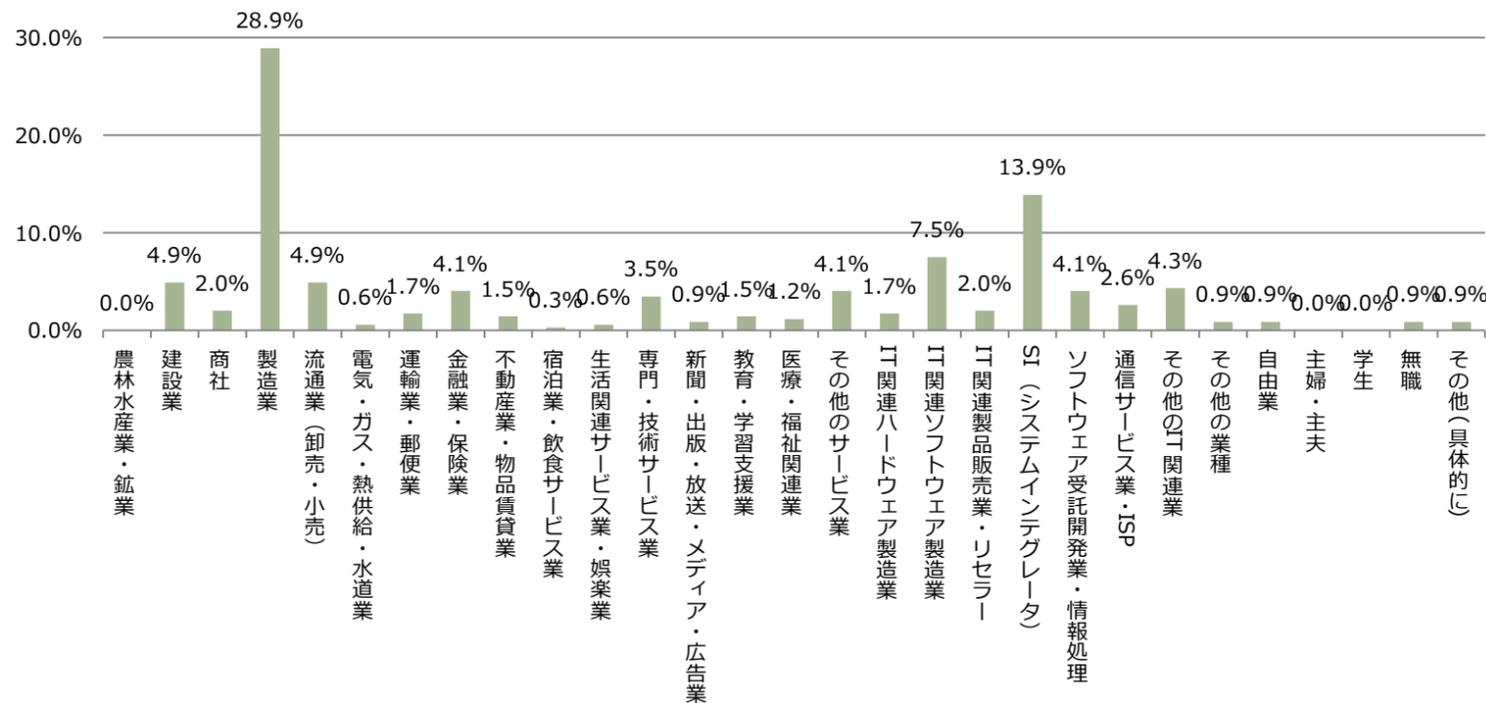
役職



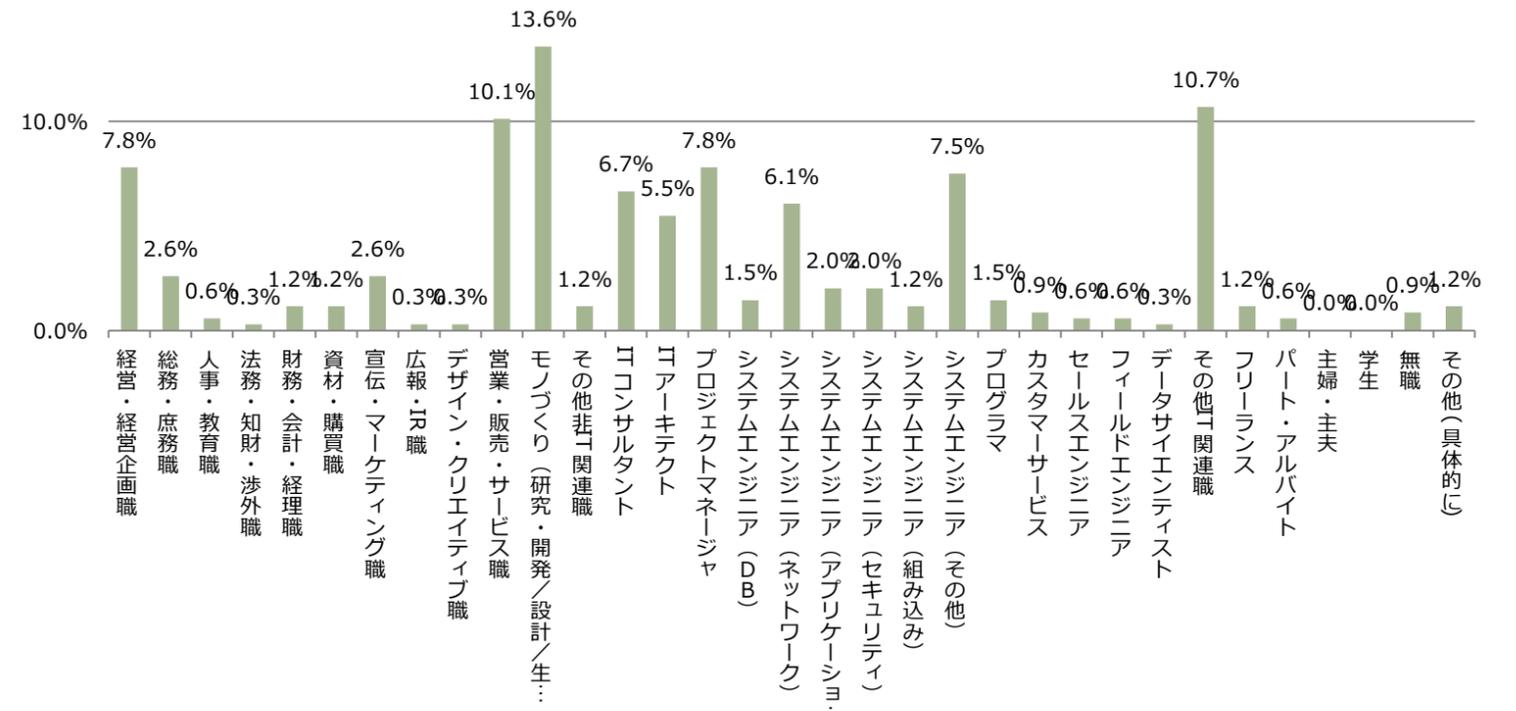
従業員規模



業種



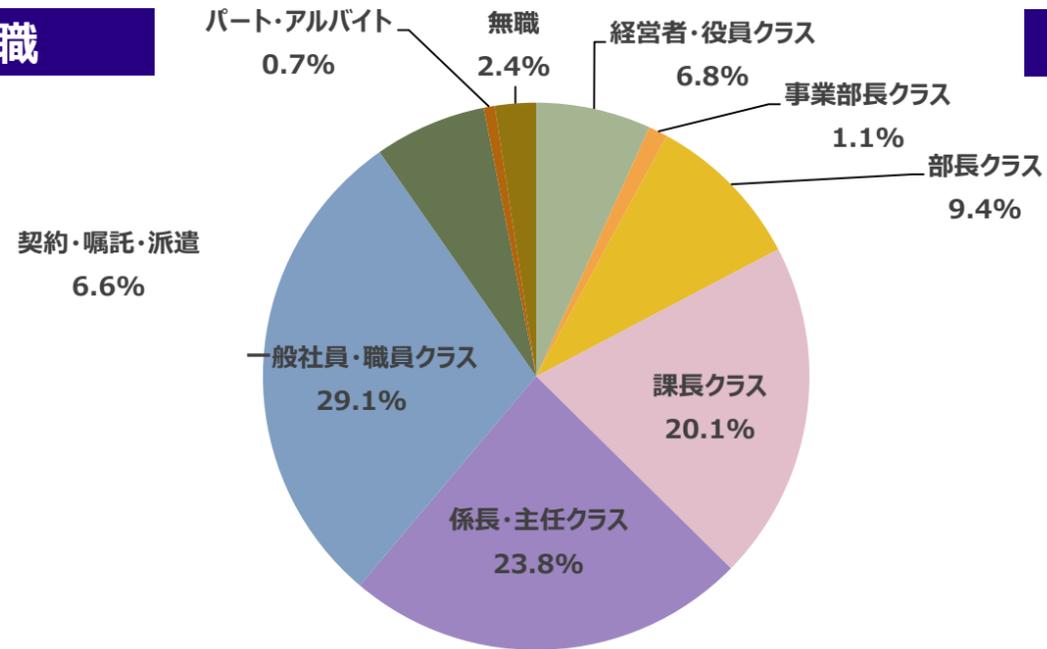
職種



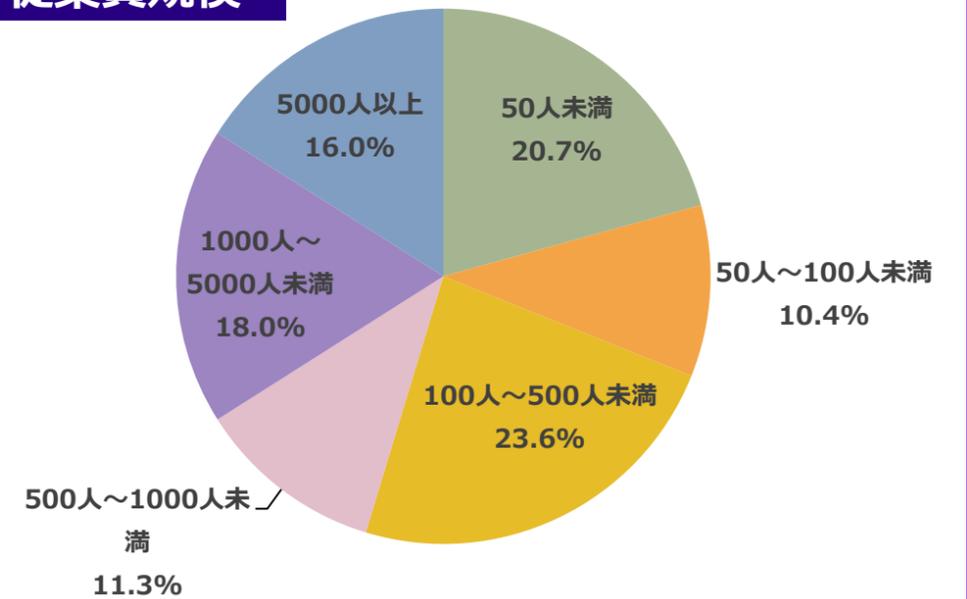
Security Week 2022 summer



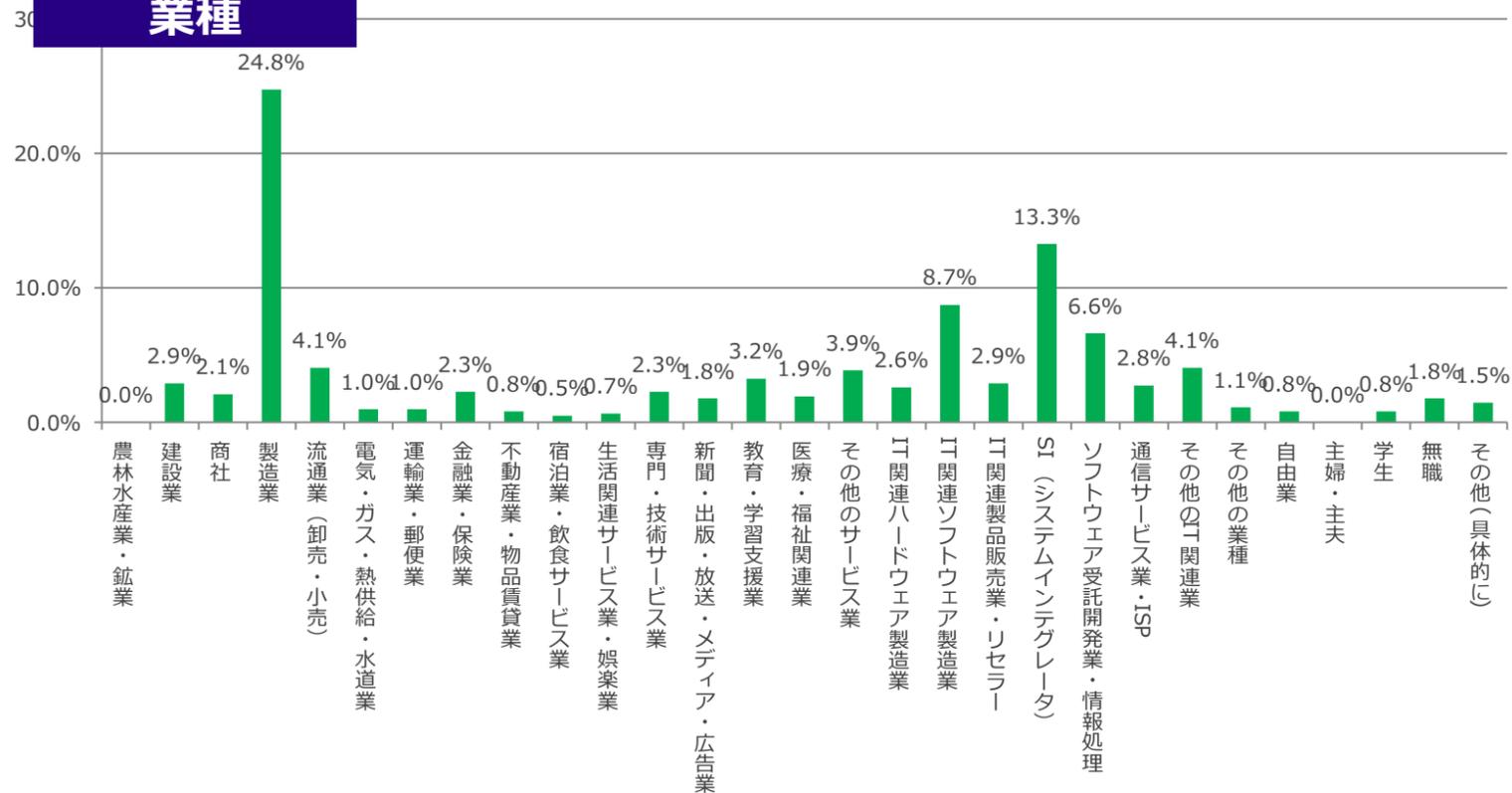
役職



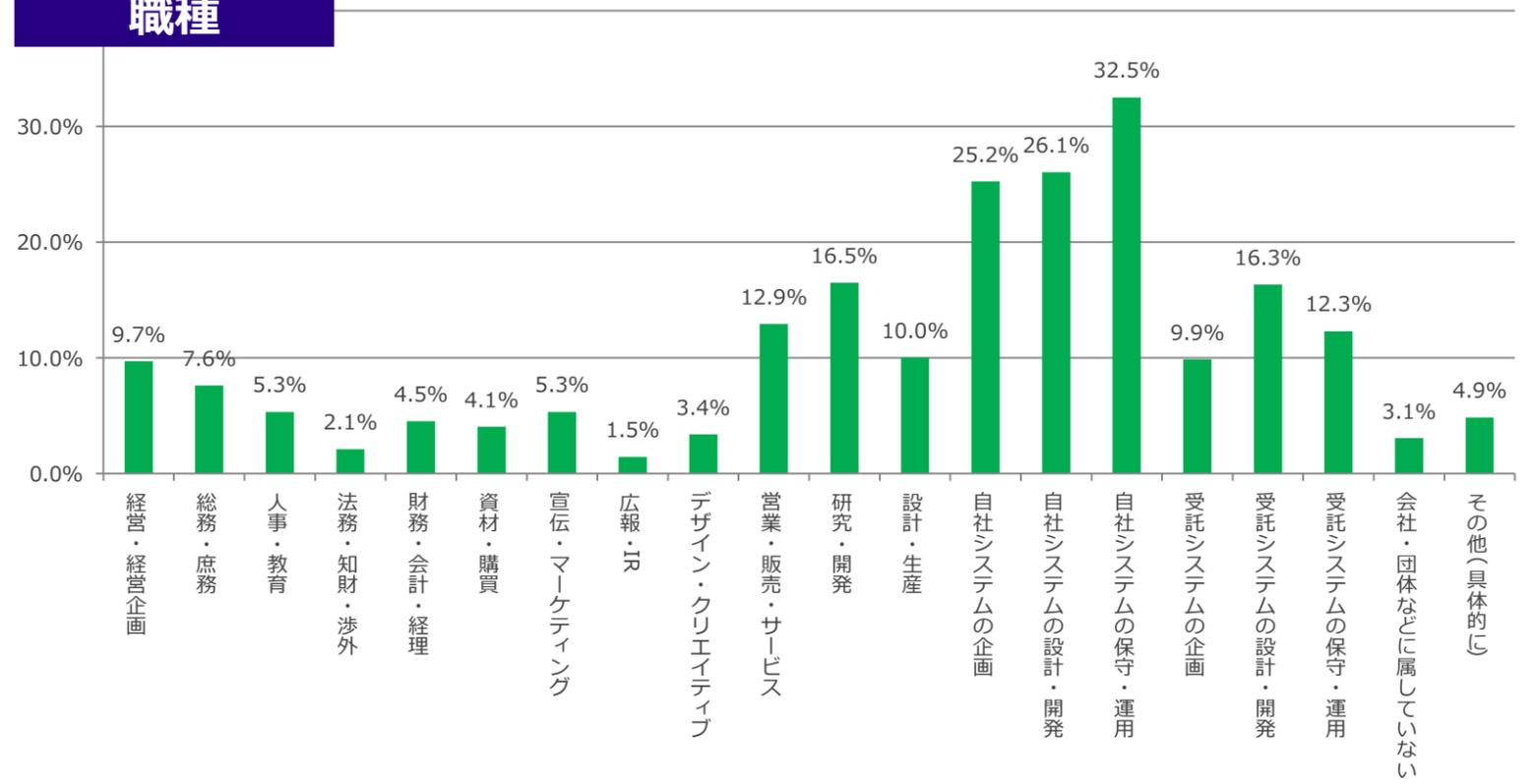
従業員規模



業種



職種



Security Week 2022 summer

ご留意事項

キャンセル料につきまして

申込書受領後または事務局案内開始後のキャンセルは、下記のキャンセル料が発生いたします。予めご了承下さい。

- ・開催日41日前まで : 50%
- ・開催日40日以内 : 100%

消費税につきまして

消費税は別途申し受けます。

オンラインでのセミナー配信リスクにつきまして

ライブ配信は常にリスクが伴います。以下にリスクを明示するとともに、当社の対策を記載いたしますので、予めご了承のほどよろしくお願いいたします。

●リスク1：インターネット回線およびインターネットサービスプロバイダーにおける障害

映像・音声ともに落ちてしまう可能性があります。直ちにバックアップPCおよびバックアップ回線での配信に切り替えます。

●リスク2：ライブストリーミングプラットフォーム（ネクプロ）における障害

ネクプロは高精細な映像、音声を届ける仕組みを搭載し、配信中にバッファをためておくことで、ユーザー環境によって映像の途切れや音声途切れる現象を軽減します。障害対策として常にバックアップ配信ができるようにシステムを冗長化していますが、万が一配信プラットフォームが落ちた場合は視聴者にメールにて配信停止のお詫びを送付し、後日オンデマンド版を案内いたします。

●リスク3：電源障害

映像・音声ともに落ちてしまう可能性があります。バックアップPCから配信停止のお詫びをアナウンスし、後日オンデマンド版をご案内いたします。

●リスク4：機材障害

映像・音声ともに落ちてしまう可能性があります。直ちにバックアップPCおよびバックアップ回線での配信に切り替えます。

●リスク5：視聴側における障害

総視聴数に対する単独（10%以下）の視聴不良はそれぞれの環境に起因する可能性が高いので、問い合わせに対して個別対応いたします。10件単位で同様の症状がみられる（現場でご報告いただいた）場合は、配信停止のお詫びをアナウンスし、後日オンデマンド版をご案内いたします。

個人情報の取り扱いについて

弊社メディア主催セミナーにおける参加者等の個人情報または個人情報を含むデータ(以下「本個人データ」という)のお取り扱いに関し、以下の点をご確認下さい。

1. (本個人データについて)

本個人データは情報主体の同意の下で弊社が協賛企業へ提供するものです。弊社は、本個人データの収集に際しては、日本国内の法令、条例、ガイドライン等を遵守していることを保証いたしますが、本個人データの正確性、完全性、有用性については一切保証いたしておりません。

2. (データ授受)

提供する本個人データは、申込書に記載のあるご担当者にのみ納品いたします。

3. (利用目的の制限)

本個人データは当該イベントに関連した貴社製品／サービスに関する参加者等の情報主体への情報提供（以下「本利用目的」という）に限定してご利用下さい。本利用目的以外で本個人データを利用される場合は、貴社の責任において、個人情報の情報主体に対し新たな利用目的を事前通知し同意を得ることをお願い申し上げます。

4. (問合せ先、個人情報変更／削除方法の明示)

本個人データの利用に際しては、適用される法令、条例、ガイドライン等の遵守をお願いいたします。また、本個人データを元に情報主体へアクセスする際は、必ず「貴社内の連絡先」「本個人データ収集元となったイベント名」および「本個人データの変更、削除、情報提供の停止方法」を明示してください。

5. (管理責任者)

本個人データについては管理の責任者を定めご利用下さい。

6. (安全保管)

本データの漏えい、滅失またはき損の防止その他の安全管理のために必要かつ適切な措置を合理的な範囲で講じてください。

7. (再提供)

本個人データの再提供は原則として行わないで下さい。再提供が必要な場合は事前に弊社及び情報主体の承諾を得た上でご利用下さい。

8. (苦情の解決)

貴社による利用により、情報主体から苦情が寄せられた場合、その解決は貴社側で解決いただきますようお願い申し上げます。また、弊社に苦情が寄せられた場合、貴社にその解決をお願いする場合がございますので、あらかじめご了承下さい。

9. (損害の賠償)

貴社による利用が情報主体の権利を侵害したという理由で、貴社が情報主体から損害賠償を請求された場合、弊社での責任は負いかねます。あらかじめご了承下さい。

ITmedia
ITメディア

ITmedia
ITメディア



アイティメディア株式会社 営業本部

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-12 紀尾井町ビル12/13F

MAIL : sales@ml.itmedia.co.jp